



発行所
 公益社団法人
 中部日本書道会北勢支部
 〒511-0018 桑名市今中町28
 平野 公慎
祝 創刊

会報の発刊に寄せて

理事長 鬼頭翔雲



歴代名書家も輩出された書の盛んな地域であります。

発足から二十五年、歴代支部長は、平野公桑先生、水谷吉徑先生、加藤子華先生、中川京童先生、谷泉石先生でありました。ここまで築きあげて頂きましたご功績、ご苦労に衷心から深く感謝を申し上げます。

この度、本会北勢支部の会報が発刊されると聞き、心よりお喜び申し上げます。

北勢支部の設立は、昭和六十二年でありまして、三重県内に北勢支部・中南勢支部の二支部が同時に発足しました。当時は稲垣松圃副会長、伊藤穿石理事長でありました。発足にあたり両先生が桑名にお越しになり、桑名の平野公桑先生、伊勢の川合東皐先生ら幹部四〜五名の先生方との打合せをされました。私も同席させて頂き、夜遅くまでお話ししたことを覚えています。

当地は名古屋に比較的近く、

によって、この地域の書文化の更なる発展と隆盛することを願うものであります。

同時にこの会報発刊により支部会員の皆様のご活躍と北勢支部の一層のご発展をご祈念申し上げてお祝いの言葉とさせていただきます。

役に立つ紙面づくりを

支部長 平野公慎



年度初めの支部委員会で支部会報を発刊することが決議され、役員の方のご協力を頂き、このたび発刊させて頂く運びとなりました。

本部理事長・鬼頭翔雲先生には大変ご多用の中、ご助言やご支援を賜り、巻頭のお言葉も頂

24年度の事業予定

講演会	講師	理事長・鬼頭翔雲先生
	日時	7月22日(日) 15:00～
	会場	四日市市文化会館 14:30から支部集会
会員展	会場	四日市市文化会館
	日時	7月20日(金)～22日(日)
研修会	研修先	京都国立博物館ほか
	日時	11月11日(日)
講習会	25年2月実施予定	
会報	第2号	25年3月発行予定

※詳細は別途案内
 展覧会以外は会員外の方も参加できます。

りを目指し、委員一同頑張るまいります。

支部長を拝命致しまして、約一年、会員の皆様のご支援、ご協力のお陰で本年度の行事である支部展、講演会、研修会、講習会、と全て無事終えさせて頂いたことが出来ました。本当にありがとうございます。

戴いたしました。茲に厚くお礼申し上げます。

支部が発足して今年が丁度二十五年になります。この節目の年に支部会報を創刊できましたことは支部発足当時の父の思い出と重なり、誠に感慨深いものがあります。

紙名はいろいろ考え、諸先生と相談のうえ単純明快な「北勢」とし、題字揮毫を顧問の加藤子華先生にお願い致しました。

今回は年間の事業の記録、報告程度のもとなりましたが、今後、会員の皆様の情報発信、交流の場など役に立つ紙面づく

先輩の諸先生が築き、残していただいた伝統を守り、さらに発展させていかねばならないと思っております。二十四年度の事業の計画も別記の通りほぼ決定いたしました。会員の皆さまに一人でも多くご参加頂きますようよろしくお願い申し上げます。

創刊によせて

顧問 水谷苔徑



は東方を守護する靈獣として古来より尊ばれ、天に上る伝説から景氣浮揚を暗示する縁起のよい干支とされていきます。「龍が天に昇る」とは春の季語でもあります。大震災から一年が開けるこの春、日本晴れの空に龍が昇る景色を思い、二〇一二年が平穩で活氣のある一年となるよう祈念して支部会報の創刊を祝う言葉と致します。

昨年三月十一日、東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、特に岩手、宮城、福島県の方々には大きな被害に遭われました。当三重県南勢でも大変な被害を受け、多くの尊い命が失われたことに深い哀悼の意を捧げるとともに心よりお見舞い申し上げます。

さてこの度、北勢支部会報の創刊が、本年度初めの支部委員会で決定されました。以前より各支部の会報が送られてきており、各支部の事業内容がよく分かり大変よい事と思っております。これまで北勢支部は会報を出さず不勉強であったと思っております。私も含め反省を致しておるところでございます。只、会報と申ししても担当して頂く先生方には大変な仕事だと思えますが、会員全員が協力して永く続けて頂くようお願いいたします。

今年は辰年・龍の年です。龍

継続は力なり

荒木敬子



小学生の頃、友人とバスに乗って書道教室へ通っていました。それから、何か一つ学び続けようと筆を離さず書き続けてきました。

墨の香りに包まれて

小池玲翠

つもりでいましたが、会場で書作品を前にして感動したのと同時に「私もこのような作品を書いてみたい」という衝動に駆られたのが最初でした。



思い起こせば、支部展には第一回から出品させていただいています。本格的に師について学ぶようになったきっかけが隣人からもらった竹深会展の案内葉書でした。それまでお習字は、自分なりに多少たしなんでいた

間もなくして師の教場に通わせて頂くようになり、他の先輩方のみえる中で、自分のつたない作品を見て頂くのに、緊張して冷や汗が出てくるのを幾度となく経験してきました。六年ほど前からは、名古屋の中林先生の教場に通わせて頂くことになり、中央の展覧会への出品が増え、一ヵ月に二つ三つと重複し

夫の転勤で関西に二十三年間在住していましたが、その間に正筆会の美しい仮名書道と巡り会いました。平安時代に書かれたという高野切や元永本古今和歌集、香紙切等に魅了されて臨書を始め、藤原佐理の自叙帳や国申分帳等も楽しく臨書して行きました。

正筆会会長の黒田賢一先生の素晴らしい作品に出会い、名古屋輝彩会に入会して十二年になります。目の前で書かれるそ

てくることもあり、今では書道中心の生活になってきました。指導する立場の仕事量も増え、何をやるにもぎりぎり、心もとない状態で、何とか一つずつこなしでいっているのが現状です。何度も何度も推敲を重ね、苦心して作品に仕上げていく時、墨の香りに包まれ、集中して無になれる自分だけの貴重な時間…。師に恵まれ、家族の理解、書、友人、社中の皆さまとの結びつきの中で、書作品のできる幸せを感じております。

これからも、初心の気持ちで感動する心を持ち続け、大好きな墨の香りに包まれて、生涯書を書いていきたいと思っております。

の度に感動しています。書の歴史は大阪の朝日文化センターにて雪心会の藤岡都逵先生に教わりました。都逵先生の講義はとても充実していて書の深さを改めて感じる事が出来ました。篆書から楷行草隷、木簡まで教わりましたが、その手本を折帖にサラサラ書いて下さり大切な教科書になっています。

気がつくとなくさんの生徒さんが来て下さり、教えながら学ぶという有意義な毎日になっていました。三年前には三重県展で最優秀を、日本書芸院展で大賞、中日展で準大賞とこの上ない喜びも頂きました。

最近短歌を習い、自詠の歌を作品にしています。心が伝わります。心が入りますのでとても楽しい作中つくりになっています。これからは多くの人に仮名書道の美しさを貴重な日本の文化を伝え、教えていけたらと思います。子供たちと書を通し、豊かな心を育み集中力や落ち着いた静かな時間を持つ、そんなことも心がけて、生ある限り筆を持っていきたく思います。

編集後記

二十五周年を記念しての会報、他誌を参考にしながら、読みやすく独自性を出そうとしましたが・・・皆様の叱咤激励を頂き、次号に繋げていきたいと、校了します。(泉)

